

mail magazine
noichi

no.56_January 2016

Published by an e-mail magazine editorial department.
All rights reserved. © utanoichi okuda. No part of this publication may be reproduced without the written permission of the Publisher.



第五十六号

2016年

メルマガnoichi56号、今月のテーマは「2016年」。
2016年最初のメルマガは、奥田雅楽一の近況報告を兼ねまして、
雅楽之一へのインタビュー号とさせていただきます。
本年も月に一度のメルマガ製作を楽しみながら励む所存です！
どうぞよろしくお願ひ申し上げます！

二〇一六年が明けて早くも一ヶ月が終わろうとしています
が、今年一年の抱負を聞かせていただければと思います。

はじめに、いつもメルマガ《noich》をお読み下さいます
して、ありがとうございます。本年もよろしく願います。

さて、今年の抱負ですね。私は先日、草稿から約一年
を要して一本の論文を書き終えました。お陰様で、自分
の中にいわゆる一つの客観性が備わった気がしています。
これからは、今までは違う観点から見識を高めて
いくことで、私が成長できればいいなと思っています。
漠然とした答えで申し訳ありませんが。

論文では、どのような研究テーマを？

箏曲人口減少を社会問題として提起し、その対策につ
いて論じました。話し出すと止まらなくなるので、この

件については、このくらいでやめておきます。(笑)

演奏家としての目標などありますか？

はい、そうですね。私も幼少から楽器の稽古を重ねて
きましたが、やはり、目前には常に高い目標があったこ
とで、自分が成長してきたように思うんですね。でも、
そういう大きな目標って、そうそう与えて頂けるもの
もありません。今後は、リサイクルや、イベントなど、
自主開催をすることでもっと自分を追い込み、自分で
分に高い目標を課していく必要があると思っています。

近々、初リサイクルを開催ですか？

今年は色々決まった予定があるので、来年あたりに
出来ればいなくと、考えています。

**今年出演予定の演奏会でオスメの会はありますか。ま
た、その会で注目して欲しいところはどこですか。**

近いところだと、二月に、著名なピアニストである
パプロ・シーグレルさんと、業界の先輩で尺八演奏家の
藤原道山さんが出演される「音楽革命」に、私も参加さ
せて頂きます。現代曲を中心としたプログラムなので、
音楽家としての真価が問われると思います。微力ながら
一生懸命臨みますので、お時間がありましたら、是非、
ご来場下さいませ。

**今年東京の奥田雅楽之一稽古場でも、おさらい会が予定
されております。指導者としての目標などあれば、聞かせ
て下さい。**

伝統文化の世界に生きる人は、お稽古、講習会といっ
た勉強の機会はもちろんですが、その他にも、舞台、交
流、私生活などを通して、文化を「伝える」ことがライ
フワークなんですね。そのためには、基本的なスタンス
として、自分が伝えられるだけの教養を身につけておか
なければなりません。私も業界ではまだヒヨッコなの
で、伝えること以上に、まずは自分が教わり、養うこと
を大事にしていきたいです。そうすれば、質の高いもの
を伝えていけるようになると思っています。

**唯是震一先生が亡くなられて一年(二〇一五年一月五日逝
去)が経ちました。何か心境の変化はありますか。**

命日である先の一月五日、お寺で一週忌の法要があり
ました。日が経てば経つほどに、祖父の大きさをひしひ
しと感じています。四月には、私の母・中島一子を中心
とした唯是震一作品による演奏会が名古屋と金沢で開催
される予定になっています。母が牽引するように、私も
祖父の作品を後世に伝えていけるよう、頑張りたいと思
います。また、祖父は「時間のある時に作曲をしなさい
い」とよく言っていました。遺言とあって、作曲活動に
も少しずつ取り組んでいきたいです。

**これまでNYCで「音楽と建築」などイベントを開催
したり、動画配信などを行ってききましたが、今年取り組ん
でいきたいことはありますか。**

イベントの開催は視野に入れています。それこそ、
せっかく書いた論文の成果を活かすためにはアクション
を起こさなければ、私の研究は何の意味も持ちません。
動画配信についても、引き続き、行っていくつもりで
す。NYCは、まだ出港して間もない小さな船。まだまだ

↓次ページにつづく



実験段階です。会社が思い描く理想の形に成長するためには、時間もお金も掛かると思っています。でも、こういうのって、なんかいいと思うんです、夢があつて。楽しみながら仕事することって、今の時代は難しいことかもしれないけど、すごく大事なことで僕は思ってます。僕にとつても、社員にとつても、楽しみながら会社を成長させたいですね。

メルマガ『noichi』で計画している企画等はありませんが。

昨年末に、メルマガ編集部と有識者が都内の小料理屋に集まって、色々話し合う場を設けました。

メルマガについては、例えば僕の遠征を記事にするとか、お遊び企画を増やすとか、新しい連載を始めるとか、皆さんから色々意見が出されました。

毎年恒例ですが、読者様の反応が良いということで、「対談」は今年もさせて頂きたいと思っています。業界の大先輩との対談は、次世代に伝えていくことにおいても非常に価値があります。

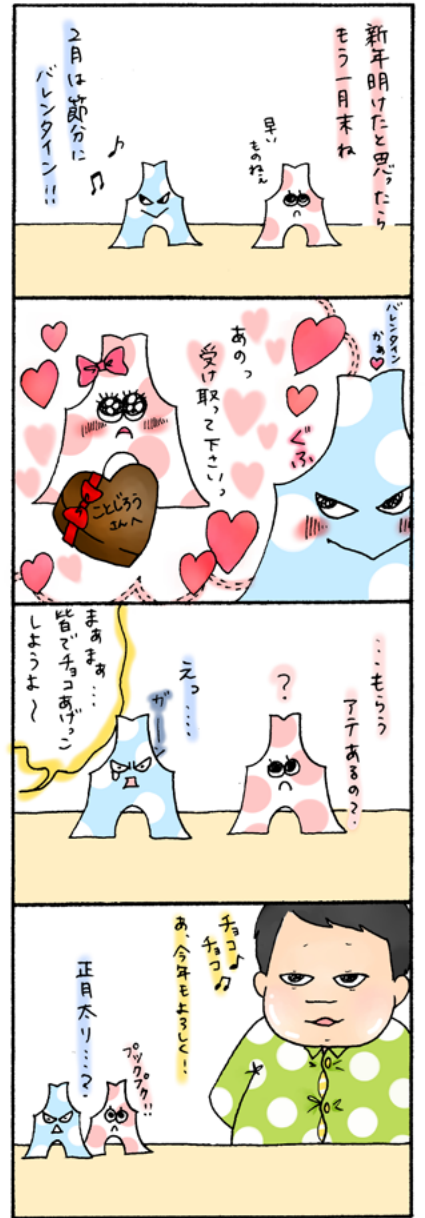


最後に、読者の皆様にもメッセージをお願いいたします。

このメルマガも、お陰様で配信開始から五年くらい経つのでしょうか。ほんとに、有難いことでございます。私はいつも読者の皆様に感謝してます。同時に、よくここまでネタが続いたなど、我ながら感心します。(笑)

様々な角度から邦楽をアプローチすることを理念に据え、これからも気楽に柔らかにアプローチし続けていきますので、読者様も気楽に読んで下されば幸いです。

今年も、皆様にとつて良き一年でありますよう、心より祈念申し上げます。



本年もよろしくお願ひいたします。Illustration: morimoe

横浜能楽堂プロデュース 音楽革命 (Music Revolution)

2016年2月27日(土)・28日(日)
出演:パプロ・シーグレル 藤原道山
奥田雅楽之一 ほか
*両日同プログラム

会場:横浜みなとみらいホール・小
開演:午後2時(午後1時半開場)
料金:4千円(全席指定)
チケット:横浜能楽堂
みなとみらいホール
チケットぴあ

◎あとかぎ◎
今年も申年。12年周期を動物で表すというのはいかにも東洋的だ。その申年は猿のキャラクター通り、キヤツキヤとにぎやかで落ち着かない年になるのだろうか。投資の世界では「騒ぐ年」と言われるそうで、さっそく株安に円高にマイナス金利と、騒がしいのは間違いない。
向かい干支という言葉をご存知だろうか。十二支を時計の文字盤のように並べて、自分の干支の反対側にある干支のことだ。その向かい干支はパートナーとして相性がいいと言われる。骨董屋さんなどは自分の干支の物を三つ持っている縁起がいいなどと吹聴して、寅年の人にはトラの掛け軸などを売りつけていたらしいが、それと同じ感じで、向かい干支の物も商売繁盛にいいですよと勧めるそうだ。作家の泉鏡花は酉年で、向かい干支のウサギグッズのコレクターだった。師匠であった尾崎紅葉も卯年だったそうだ。そういえば、寅年である筆者の親友は向かい干支の申年だ。迷信と言ってしまうとそれまでの話なのだが、自分と正反対の位置にいる、つまり逆の性質の人と相性がいいはずだという感覚も、陰陽思想的でアジア的だと言えるだろう。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお

